

東京都調布市 深大寺の家 「(HOUSE)」

設計：ケース・リアル 二俣公一



バイヤー、ディレクターとして活動するメソッド代表、山田遊の自邸「(HOUSE)」が、ケース・リアルの二俣公一による設計のもと、2022年12月に完成しました。もともと生産緑地だった土地を宅地造成して建築された(HOUSE)の周囲はまだ生産緑地が残り、美しい借景が広がります。

(HOUSE)のカラースキームは、外壁に使われているベンガラをベースにディテールを詰めています。以前より山田を魅了してきた西村伊作氏の自邸（1914年完成）に取り入れられていた赤茶色と、ちょうど山田が周辺の緑に合う色として考えていた赤土の色が、二俣氏との対話の中で(HOUSE)の大切なテーマとなりました。

山田の祖父母が、西村伊作氏が創立し自ら設計も手がけた文化学院（現在は閉校）出身であり、彼の理念に以前より共感していた山田の想いが自邸にも取り入れられています。

また、家具やインテリア小物は、これまでバイヤーとして家具から小物まであらゆる生活にまつわるものをセレクトしてきた山田が、今回はじめて自身のためにアイテムを選定しました。1Fには、ギャラリー、キッチン、リビングダイニング。1Fのアプローチには洗い出しの玉砂利を使用し、テラスからギャラリー、土間まで同じ仕上げにすることで連続性を持たせています。

2Fはベッドルームとちゃぶ台とラグを配置した床座でくつろぐ空間、そしてバスルームと洗面スペースでシンプルに構成されています。ベッドルームからは吹き抜けを通して1Fをのぞみ、外空間とのつながりを感じることができます。

施主：メソッド 山田遊

計画種別：新築

用途：住宅

計画期間：2021年4月～2022年11月

構造：木造

規模：地上2階

建築面積：46.36平米

延床面積：82.73平米

敷地面積：115.94平米

計画地：東京都調布市深大寺

設計：ケース・リアル 二俣公一 山本佳奈 有川靖

設計協力・施工：吉田工務店

照明計画：BRANCH LIGHTING DESIGN 中村達基

家具製作・コーディネート：E&Y

植栽計画：GREENETTA 高浦裕子

サイン計画：BOOTLEG 尾原史和

写真：志摩大輔

二俣公一 コメント

最初にいただいた要望の一つは、この緑と対比的な”赤土”や”赤茶”をイメージした家にする。そしてもう一つは、家を「住まう」だけの場所ではなく、街に開かれたギャラリーのような場所としても使うこと。デザインやアートを扱うバイヤーであり、ディレクターとしても活動するクライアントの、公私にわたる様々な活動の新しい拠点を計画しました。

この建築を最も特徴づけるのは、外壁に使った「ベンガラ」の深みのある赤です。ベンガラは耐候性の高い顔料で、古くから日本家屋の塗料としても使用されてきました。周囲と同系色を用いて環境に溶け込ませるのではなく、敢えて対比的な色味を使い、この場所に建築する意味合いを強めたいと考えました。そして赤茶色の外壁には、ガルバリウム鋼板を用いてシルバーの屋根や庇を組み合わせています。外構には日本の南国系の植物を植え込み、周囲の緑との対比をさらに強めました。

その緑を横目に、テラスと一体的になったアプローチを進むと、吹き抜けのある大きな土間へと続いていきます。エントランスからこの土間にかけては、赤味のある石を混ぜ合わせた洗い出しで仕上げている、外と中をつなぐこの土間は、様々な場面でこの家の境界を曖昧にします。

例えば1階は、普段はリビングダイニングとして機能し、イベントの際にはセミパブリックな展示空間になります。通常よりも高めに設定されたダイニングカウンターは、ある時は展示のためのディスプレイ台に、またある時にはキッチンと併用して立食のための提供カウンターへと柔軟に役割を変え、さらにカウンターやソファなどの家具は、土間とフローリングとの境界に設え、靴を脱がなくても使えるよう設えました。多様なシーンを想定したことが、この家をより特徴づけています。

吹き抜けとなっている土間部分の天井は、大らかな弧を描くむくり屋根の表情が最もあらわれる場所です。プライベートな空間である2階の寝室で再びこの吹き抜けと繋がり、家の中を視線や空気が循環します。そして、1階ではカウンターに合わせてチェアをデザインしたのに対して、落ち着きが求められた2階にはローテーブルをオリジナルで製作し、床座としての性質を強めて、1階とコントラストをつけました。

環境から建築、そしてインテリアや家具まで、クライアントの考え方や掛け合わせながら計画することで、この家の在り方を強く定義づけることを試みました。

二俣公一 / 空間・プロダクトデザイナー



福岡と東京を拠点に、空間デザインを軸とする「ケース・リアル (CASE-REAL)」と、プロダクトデザインに特化する「二俣スタジオ (KOICHI FUTATSUMATA STUDIO)」を主宰。国内外でインテリア・建築・家具・プロダクトと多岐に渡るデザインを手がける。

主な空間作品に、和菓子店「鈴懸」や「アーツ&サイエンス福岡店」ほか、香川県・豊島にある「海のレストラン」、日本橋馬喰町の「DDD HOTEL」、ニセコの別荘「CHALET W」、オーストラリア発のボタニカルケアブランド「イソップ」との協働などがある。

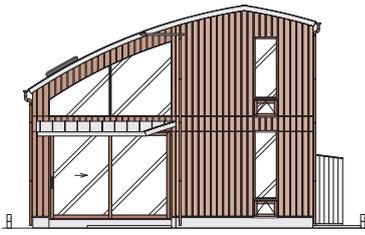
主なプロダクト作品に、E&Yよりリリースされたスツール「GO」やコートハンガー「4FB」、天童木工の創立80周年記念プロジェクトの一環でリリースされたチェア「SAND」、アントワープのレーベル”valerie_objects”のためにデザインしたカトラリーセットなど。また、真空管アンプ「22」はサンフランシスコ近代美術館の永久所蔵品となっている。

このほか、フィンランドのインテリアブランドArtekによる「FIN/JPN フレンドシップコレクション」の1つとして「KIULU BENCH (キウル ベンチ)」をデザインするなど、国内外の様々なブランドと協働している。

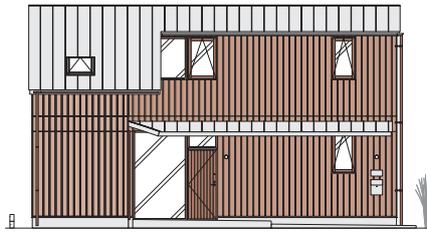
Web : CASE-REAL

Web : KOICHI FUTATSUMATA STUDIO

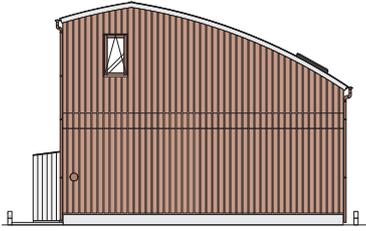
立面图



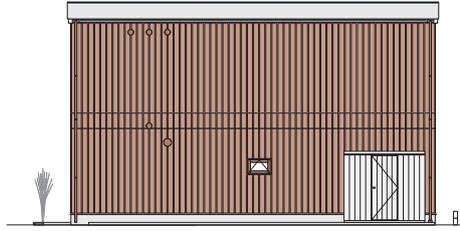
West elevation



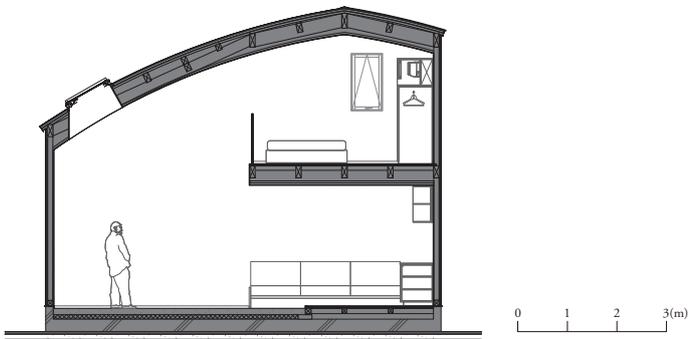
South elevation



East elevation

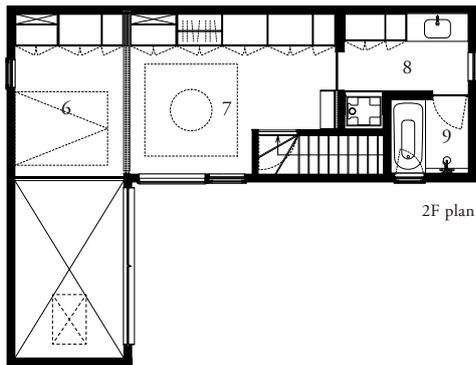


North elevation

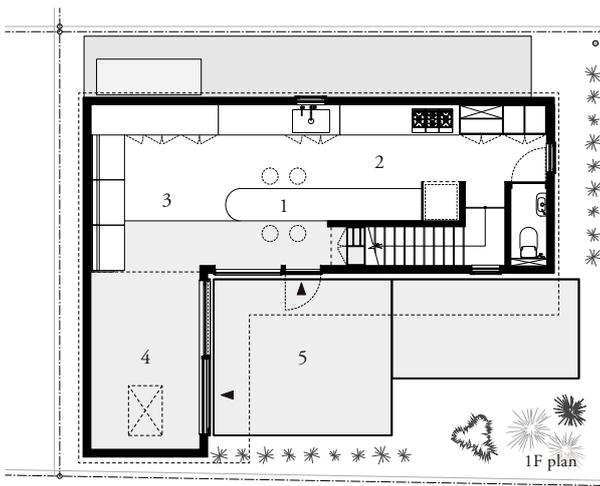


Section

平面图



2F plan



1F plan



- 1. Dining counter
- 2. Kitchen
- 3. Living room
- 4. Atrium / Gallery
- 5. Terrace
- 6. Bedroom
- 7. Private room
- 8. Washroom
- 9. Bathroom

0 1 2 5(m)

1F



ベンガラの外観のエントランス。
テラスからつながるエリアがギャラ
ラリー。



アプローチ、テラス。左手はダイニングエリア。



ギャラリーからテラスをのぞむ。



ギャラリーエリアからリビングエ
リアをのぞむ。
吹き抜けの上はベッドルーム。



リビングエリアの壁面シェルフには、山田と関係性の深いクリエイター
の作品を並べた。
リビングエリアはギャラリーエリアの土間より1段あがっている。



キッチンエリアとギャラリーエリア
にまたがるダイニングテーブル。



ダイニングエリア。
キッチン側と玄関側は椅子の高さを変え、着席時には視線が合うように配慮。



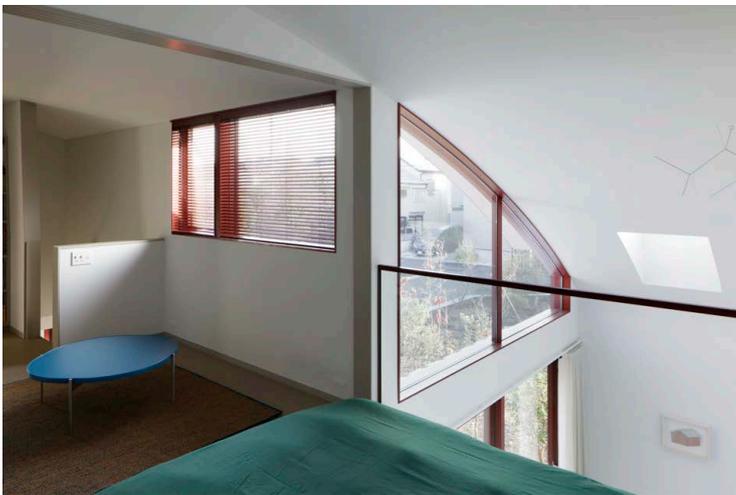
左手はキッチン。テーブルをラウンドにしたいという山田の希望に
二俣が床に同様のラウンドをデザインした。



ベッドルーム。天井はゆるやかに弧をえがく、むくり屋根の形状が室内にもあらわれている。



ベッドルームから床座のプライベートエリアをのぞむ。テーブルは二俣オリジナルのデザイン。



ベッドルームからのぞむエントランスエリア。



美濃焼の黄土色のタイルを配したバスルーム。



パウダールーム。ブラインドは特注のベンガラカラーで仕上げている。

山田遊

東京都出身。南青山のIDÉE SHOPのバイヤーを経て、2007年、method（メソッド）を立ち上げ、フリーランスのバイヤーとして活動を始める。現在、株式会社メソッド代表取締役。各種コンペティションの審査員や、教育機関や産地での講演など、多岐に渡り活動を続ける。これまでの主な仕事に、国立新美術館ミュージアムショップ「スーベニアフロムトーキョー」、「21_21 DESIGN SIGHT SHOP」、「GOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARA」、「made in ピエール・エルメ」、「燕三条 工場の祭典」などがある。

メソッド

デザインや工芸、美術、ファッション、美容、果ては食に至るまで、あらゆる領域で産み出されるモノ、また、モノを産み出すヒトと密接に関わりながら、店づくりを中心に、日々、様々な仕事をおこなっている。市場に流通する価値あるモノたちを通じて、文化を新たに創出し、育み、また、成熟していく過程に寄与することを活動の目的としている。

*プレスリリースに掲載した他にも多数の画像をご用意しています。Photo : Daisuke Shima
<https://www.dropbox.com/sh/8uy5k2odo2xbea8/AAB1cQO1nD3AKG02ecJwvmvaa?dl=0>

プレスお問合せ先
 HOW INC. pressrelease@how-pr.co.jp